

高齢者医療でよくある症状編～腰下肢痛～

腎気が不足した状態すなわち腎虚では、脱毛、白髪、難聴、皮膚の乾燥、排尿障害、腰痛、下肢痛、下肢の冷えが生じてくる。その場合に用いる漢方薬が補腎薬であり、代表薬が八味地黄丸である。また、八味地黄丸よりも、利水・血流促進作用、除痛効果が増強されたものが牛車腎気丸である。

したがって、高齢者の下肢痛の第一選択漢方薬は、補腎薬である八味地黄丸あるいは牛車腎気丸である。一方、高齢者では、骨の変形などにより神経や血管が圧迫され微小循環障害が生じる。局所が低酸素状態となりエネルギー産生の低下で浮腫が生じ、さらに神経や血管を圧迫するという悪循環が生じる。

補腎薬で効果が不十分な場合は、気血水のどこに問題があるかを見極めて次の一手の漢方を選択する。血に問題がある場合（血虚、瘀血）は疎經活血湯を用いる。疎經活血湯は直接痛みをちらす生薬と、血液の循環をよくして温めることで痛みを改善する生薬で構成されており、夜間に悪化／明け方に腰痛で目覚め／飲酒で悪化／下腹部圧痛（瘀血）が使用目標となる。

気に問題がある場合（気虚、気滞、気逆）は五積散を用いる。「五積」とは、気、血、痰、寒、食の五つの病證が体内に蓄積して生体の機能障害を起こしていることをさす。主に下半身の冷え、上半身ののぼせを訴える中年女性の、起床時に起こる強い腰痛、坐骨神経痛などに有効である。虚証で顔色は不良／上半身が火照り下半身が冷える／寒冷や湿気に対する順応性が乏しい／冷房による冷えや、かぜの後の腰・下肢の冷えや疼痛、のぼせなどが使用目標である。

水に問題がある場合（水滯）では防己黃耆湯を用いる。気虚に風湿の証を伴うものの基本処方で『金匱要略』が出典である。臨床的には、色白の水太り体型で、多飲多汗し、息切れしやすいタイプで、変形性膝関節症で夕方になると膝関節に水が溜まりやすいものに用いる。下腿浮腫／変形性膝関節症／色白の水太り／多汗が使用目標となる。